平成29年度レブンアツモリソウ現地検討会　意見交換会

１．概要

（１）日　時：平成29年６月12日（月）16:10～17:00

（２）場　所：礼文町きらり交流館

（３）出席者：

〇検討委員：　河原孝行委員/幸田泰則委員/高橋英樹委員

〇関係機関：北海道森林管理局宗谷森林管理署/礼文町高山植物培養センター

〇オブザーバー：北海道生物多様性保全課/北海道宗谷総合振興局/レブンクル自然館/志村華子（北海道大学大学院助教）

〇事務局　：北海道地方環境事務所野生生物課/稚内自然保護官事務所

（４）配布資料：

資料　　レブンアツモリソウ保護増殖ロードマップ（環境省）

参考資料　南部におけるササ刈り払いによる環境改善の取り組み（礼文町）

２．意見交換会概要

<u>意見交換１　ロードマップの普及啓発について</u>

〇委員：ロードマップについて町民の意見をくみ上げる仕組みがほしい。

〇委員：ロードマップに沿ってやれることを進めるとよい。

〇委員：次の事業展開をどう進めるかが重要。また、住民へのアピールが重要。

→事務局：ロードマップの公表については、北海道森林管理局、礼文町、北海道地方環境事務所の３者で相談する。

<u>意見交換２　アツモリの現状と課題</u>

〇委員：レブンアツモリソウは意外に減っていないという印象。しかし、まだ不明なことがたくさんあり、研究が必要だと思う。

〇オブ：研究者は研究内容を紹介することで町民にレブンアツモリソウの面白さをアピールし、町は貴重な資源としてレブンアツモリを守ることの必要性の共通認識、啓発活動として利用する、研究者と礼文島とでお互い利益があるような展開になれば良いと思う。

〇機関：今まで無かった所に新しく群生する場所が見つかった場合はどうすればよいか。

〇委員：自然に任せて衰退しても仕方がないとするが、刈払いなどしながら維持するかはケースバイケースだと思う。

〇委員:100年や200年先の礼文島におけるレブンアツモリソウをどうしようとするのか。

礼文町民の生き方みたいに生活と上手くマッチするような目標があれば、今どうすべきか言えると思う。

→事務局：レブンアツモリソウが自然界で絶滅しないことを目標としたい。礼文島の人口が減少していく中で、何処を優先的に保全していくのか選ぶことが必要になると思う。

意見交換３　自生地復元について

○事務局：希少種の保全には、①生育地の保全、②失われたところの回復、③新しい場所を作るという３つの考え方があるが、どうすれば良いか。

○委員：直接播種による増殖方法など、幾つか具体的な計画を立てて事業を進めていくことが重要。過去にあった場所については復元を考えても良い。

→事務局：積極的に昔の分布地まで復元するにはマンパワーがたりない。失われつつあるところを食い止めたり、そこに播種をしたりするなど少ない労力でやれることに限られる。

○委員：植え戻しは失敗事例ではない。活着や開花した株もあり、今ならある程度大きくしたものを植え戻せば活着する事がわかっているが、確実な技術を確立しようとしてもなかなか上手くいかない。

○事務局：少し手を加えるだけで生育域が復元できる、または広がると思われる場所を優先的にやっていくのが良いと思う。

○委員：現在の個体をある程度環境を維持して恒常性を良くすることと、新しい実生など世代交代したものを新しい所に移すこととは意味合いが違う。

○オブ：環境省の所官地内で回復試験に関わったが、ササに関しては刈った方が良いことがわかってきた。レブンアツモリソウ群生地では道路を拡張した際の撹乱によって一斉に出てきた。刈り払った斜面などはリターを取り除いて種子を定着しやすくするのも１つの方法だと思う。

意見交換４　盗掘防止とマナー向上について

○オブ:レブンアツモリソウは平成27年の秋に盗掘があった。パトロールも行っているが、普及啓発の意味合いが強い。知られていない自生地より、有名な群生地付近がパトロールの対象となる。

○機関：基本的に巡視する人数が少ない。以前に比べて不審者は減っていると思うが、忘れた頃に起こるのだと思う。

○事務局：盗掘よりは、カメラマンのマナー違反が問題である。

○機関：昔と比べ踏み込んで写真を撮る人は減っている。一部のマナーを守れない人が目立つが、そういう人にマナーをどのように守ってもらうかが難しい。

〇事務局：今後は、ロードマップを着実に実行していくこととし、検討会は定期的な開催ではなく、具体的なテーマがあった際に開催したいと考えている。